

平成 25 年度事業計画

【事業実施期間】 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

◎「いのちのスープの会」

報告 担当理事 山田陽子

今年度も月例会の開催を予定している。今年度は会の趣旨を踏まえ、毎回玄米スープ又はそれに準ずるスープを必須テーマとして献立に取り込む。又、レシピやチラシ作成に取り組む。新たな取り組みとしては、料理研修会を計画している。他の部会の事業開催にあわせて玄米スープの提供を積極的に行っていく。

◎「ほくりく聞き書きの会」

報告 担当理事：綿谷修一

部会の名称を「聞き書きボランティア事業」からより広いテーマに取り組むため「ほくりく聞き書きの会」とする。活動としては普及講座として「初級聞き書き講座」を開催し、聞き書きの輪が広がっていく。更に、聞き書き活動に取り組んでいる実践者を対象に、更なる実践力アップを目指す学習会を定期的に行い、聞き書き講座講師の資格取得を目指す。また、教育分野での新たな取り組みを行う。現場での「コミュニケーション能力欠如」という問題に着目し、ここに「聞き書きの手法」の導入を試行する。

◎「魂のいちばんおいしいところ」

報告 担当理事：中川恵美

- ・ 11 月 30 日にこまつ曳山交流館みよっさで 70 名ほどの規模で開催を予定。
- ・ 生と死の文化を豊かにするまちづくりをイメージする講演、コンサート等の取り組みを行う。

◎「障がい児・者の居場所づくり事業（ぼぼぼのいえ）」

報告 担当理事 中川恵美

- ・ 小松市を中心に、バリアフリーになっている箇所や特徴を入れたマップを作り、ハンディがある方が出かけやすくなるようにします。
- ・ 「こころのオープンカフェ」の開催により、ぼぼぼのいえを中心とした地域に根ざした交流をはかる。活動担当者として住職、医療コーディネーター、保健師、助産師、介護士、ケアマネを予定している。

◎「子育て中の親子の育児支援」

報告 担当理事 崎川万樹子

- ・ ハーブを育てながら、全 4 回コース（キッチンコンテナ作り、親子で演奏、みんなでお昼ご飯、絵本を楽しむ）を通して子育ての楽しさの発見の提供をめざす。

◎ 「金沢マギー（患者と家族の声からつくる支援のかたち事業）」

報告 担当副理事 綿谷修一

「金沢一日マギーの日」を開催し、患者・家族が生きる喜び・自分らしさを取り戻せる空間と支援の在り方を探り、あるべき姿の実現に向けて歩みを加速させていく。本年度は「がんとむきあう会」が行う月1回の例会及び金沢マギーに向けたシンポジウム等の支援をしていく

- ・10月5日(土)「金沢一日マギーの日」開催

外部講師を招いてワークショップ、座談会を開催し、患者・家族が生きる喜び・自分らしさを取り戻せる空間と支援の在り方を探る。

同時開催事業：金沢がん哲学外来 協力：ここちカフェ

◎ 「次世代育成事業」

報告：担当理事 榊原千秋

- ・金沢大学聞き書きサークル「星ことば」の学生を中心として、聞き書き講座への参加、金沢マギー（金沢一日マギーの日、シンポジウム）や金沢がん哲学外来開催時のココチカフェの併設を通じて、当事者や多職種との相互交流を通じて次世代育成の場とする。
- ・聞き書き講座及びココチカフェを創設してきた卒業生と在学生との交流会を行ない卒業後も活動に参加できるようネットワークをつくる。
- ・学生自らが企画、運営できるよう支援する。
- ・新たな学生ボランティアの開拓（建築、芸術など）

◎金沢がん哲学外来（患者と家族の声からつくる支援のかたち事業）

報告：担当理事 小石川均

- ・年5回の開催（4/14、5/18、8/24、10/5（金沢マギーと連携）、12/15）を計画し、外来相談とがん患者・家族等に役立つ講演会、カフェコーナーを毎回開催する。
- ・カフェコーナーでは患者・家族の要望のあった気軽に相談対応できる専門員（薬剤師、看護師、栄養士など）を配置する。
- ・いのちのスープの会と連携し、参加者に玄米スープの提供をおこなう。

■新規事業で認可された助成金

- ・在宅療養者と介護者主体の在宅医療ネットワークモデルの開発をめざす。

（申請責任者：帯刀裕之）担当榊原千秋

その方法は①在宅療養者とその家族、医療・保険・福祉サービス提供者のニーズ調査しまとめる。②ワークショップを実践し、評価する。また、在宅医療ガイドブック・視聴覚教材を作成する。③地区公民館での講演会・市民公開講座にて実践報告を行う。